

第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会 発表

題名；パン食習慣がある嚥下障害高齢者への高カロリーパン粥とおかず味の補食の組み合わせで実施した栄養管理

氏名；麻植有希子¹⁾、神山佐奈美¹⁾、桑原昌巳²⁾

所属；¹⁾ ワタミ株式会社健康長寿科学栄養研究所、²⁾ 日清オイリオグループ株式会社中央研究所

1.目的

高齢者施設で嚥下調整食として提供される主食は、米飯の形態調整食である「全粥（日本摂食嚥下リハ学会の嚥下調整食分類（食事）コード4）」や「酵素入りゲル化剤粥（コード1 j）」が多いが、高齢者の一部には、米飯が苦手でパン食が主食習慣の方もいる。市販食パンの物性は、押しつぶしに対してはやわらかいが、咀嚼時には噛み切りにくく、嚥下調整食には適さない。一方、米飯の嚥下調整食である「全粥」は250g摂取しても約180kcalと少ないため、量を摂取できない嚥下障害者の主食として主要なカロリー源とはならない。パン食の嚥下調整食として、高カロリーでコード1 jの「パン粥」を開発し、風味の相性が合うコード1 jのおかず味の補食との組み合わせで栄養管理を実施したので報告する。

2.方法

パン粥は食パンに牛乳、脱脂粉乳、粉飴、生クリーム、バター、「ソフトアップ」を添加してミキサーでペースト状に加工して袋に充填密封し、スチームコンベクションで90℃30分間加熱処理後冷却してムース状のパン粥を作成した。おかず味の補食はパン粥と風味の相性が良い「エネカップ」を組み合わせた。共に栄養成分と物性値を測定した。有料老人ホームのパン食の主食としてこのパン粥と補食を提供し、嗜好性と嚥下しやすさをアンケート調査で、栄養状態を体重で測定評価した。

3.結果

パン粥120gと「エネカップ」40gの主食としての提供カロリーは約280kcalであった。物性測定の結果は共に学会分類コード1 jに該当した。パン食習慣のある有料老人ホーム入居者に毎食の主食として1か月継続提供した後のアンケート調査の結果、嗜好性と嚥下物性は良好で、継続的な喫食が可能であった。栄養管理の結果として体重も維持されていた。

4.考察

嚥下調整食コード1 jのパン食の主食として提供する今回の組み合わせは、少量で高カロリーであり、パン食習慣を持つ高齢嚥下障害者への有効な栄養管理方法であると考えられる。